

平成 30 年間の社会変遷 — 今後の課題 —

あと数か月で今上天皇は護位され、新元号へ改元となる。

この 30 年間には、さまざまな社会変化が続いた。外国ではソビエト連邦の解体、EU 統合、リーマンショック、テロの多発、中国の台頭、国内では市町村の大合併、政権交代、雇用制度の変化、消費税導入、バブル崩壊、ノーベル賞受賞、電子機器類の驚異の進歩、人口減少問題、地球温暖化、多発する自然災害、エネルギー問題、医療関係では介護保険の導入、社会保障費の肥大、医療費抑制など列挙にいとまがない。

そこで将来への課題となる電子機器の発達と人口問題をとりあげてみた。

電子機器の驚異の発達で、近年の情報、記録、コミュニケーション環境は激変した。

パソコン、携帯電話・スマホ、種々のカードは今や日常生活の必需品となっている。驚異的な技術の進歩で、AI はその速さ、精確さで、今や人間の能力以上の領域に達した。他方、人間関係、いわゆる“人間臭さ”が感じられた生活が懐かしい。

いったん便利な機器使用体制が構築されれば、そのリスクに目をつぶり、依存から抜け出せない。それぞれの利益とリスクを見据えた上で技術を使いこなす人間の知恵を磨きたい。

人口問題も、高度成長期の昭和時代には想像もしなかった新しい問題である。すなわち人口減少、少子高齢化、地域人口格差の増大である。日本の総人口は、平成 18 年をピークに減少し始めた。山口県でも山間部より都市部へ、山陰側より山陽

飄

々

広報委員

堀 哲二

側へ、全国レベルでは三大都市圏へと若者の向都離村志向の波は加速している。残された過疎地域の老人の生活環境は日々増悪している。人口減少は、地方の経済活動の低迷だけではなく、生活全般に影響している。

社会保障制度を支える現役世代の負担は増加するばかりである。統計予測によれば、人口減少が今のままで推移すると、将来、現在の医療等の社会保障制度の維持は難しいと言われている。

文字通り、“待ったなし”の課題である。敏速で柔軟に対応できる組織の構築が、ぜひ必要である。

振り返ってみると平成時代は想像もできない速さで変遷し、昭和期の価値観を超えた将来への新しいあり方を模索し、未来への発展へつながる貴重なヒントを与えた。

改元の時期は、若い次世代の人々に日本の将来を託すよい機会でもある。

県下唯一の医書出版協会特約店

医学書専門 井上書店
看護学書

〒755-8566 宇部市南小串2丁目3-1(山口大学医学部横)
TEL 0836(34)3424 FAX 0836(34)3090

【ホームページアドレス】<http://www.mmm-inoue.co.jp/mb>
新刊の試覧・山銀の自動振替をご利用下さい。